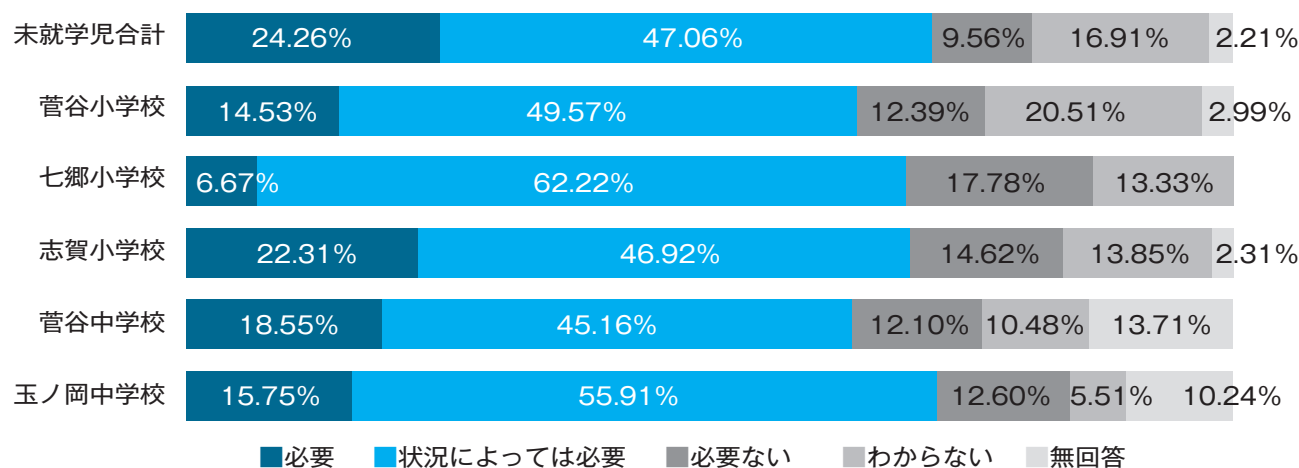


# ～子ども達の未来のために～

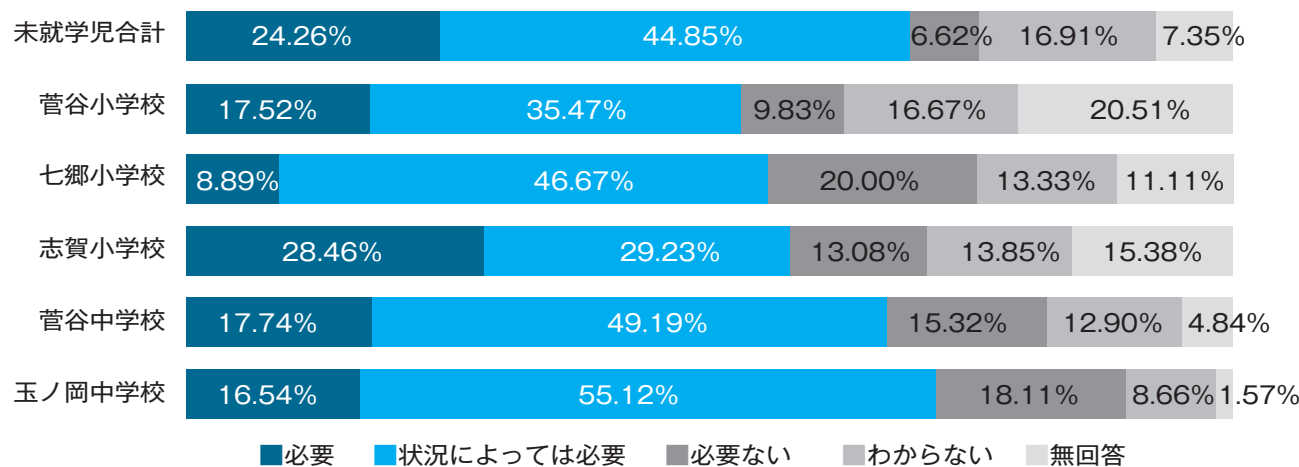
## アンケート結果をお知らせします

町立小中学校の学校教育についてのアンケートを実施しました。アンケート内で小学校・中学校再編の必要性についてお尋ねしました。

### 再編の必要性(小学校) 学校等別



### 再編の必要性(中学校) 学校等別



対象：未就学児・小中学生の保護者 回答率：67.46% (798世帯/1,183世帯)  
ご協力いただきありがとうございます。

## 学校再編等についての会議延期について

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けて、8月に予定していた会議は延期となりました。新たな会議日程等は町ホームページ等でお知らせします。

問合せ 教育委員会事務局 ☎62-0823

## 教育相談室

# 出来ることから始めてみませんか？

まだまだ暑い日が続いていますが、子どもたちは夏休みが終わり、

あんな子になる親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる。叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう。

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだとおもえるようになる。(下口シー・ロー・ノルト著 レイチャル・ハリス著 石井千春訳)

最終的には、次第に成長してきた子どもは「自分を本当に支えてくれる親とは、どんな人か？」と考えるようになってきます。ずっとそばにいてくれる人とか、「大好き」を何度も言ってくれる人、何でも願いを聞いてくれる人のような親の姿が浮かぶかもしれません。

新学期がスタートしました。我が子と40日近く1日中生活を共にすると自由(時間・お金・睡眠?)を奪われ、穏やかな気持ちでいつも通りの生活を過ごせなくなった場面もあったのではないのでしょうか。子どもは、親が忙しい時に限って、疲れているときに限って、思うように行動してくれないものです。

励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる。広い心で接すれば、キレる子にはならない。誉めてあげれば、子どもは、明るい子になる。愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。

また、我が子への思いが強ければ強いほど、思い通りにならない子どもに対して3つのパターンが考えられます。1つ目は「頑張ればなんとかなる」と、様々な方法で働きかけます。2つ目は「もう頑張れないだろ」と受け止め、無理をさせないようにします。3つ目は頑張れない行動の背景を考え、とにかく、あの手の手で戦いのように子どもと接していきます。

求めている親は、生きづらく困っているときに支えてくれる安心の土台(安心感)、チャレンジしたいときに見守ってくれる伴走者なのです。衣食住に加えてこの2つがあれば、頑張れない子どもたちもチャレンジできる人間になっていきます。

「子は親の鏡」  
けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる。  
とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。  
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる。

分ち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ。  
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る。  
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ。

子どもが幼児期から小学校低学年の頃は、子どもに「ありがとう」を口癖にします。脱いだ服は片づける。「だっ」と言わない。自分の良いところを見つめる。ご褒美がなくとも頑張る。お行儀よく食べる。プレゼントは喜んで受け取る。横切るときは、人の後ろを通る。人の話を真剣に聞く。物を足で踏まないなどにチャレンジして育てていきたいものです。合い言葉は「よくできたね」とよくできたときは言っておきましょう。

「宮口幸治」どうしても頑張れない人たち「ケイキの切れない非行少年たち2」新潮新書  
齋藤孝「よくできました!こどもルールブック」日本図書センター

「かわいそうな子だ」と言ってお育てると、子どもはみじめな気持ちになる。子どもを馬鹿にすると、引っこみじ

ば、子どもは、やさしい子に育つ。守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ。

「よくできたね」とよくできたときは言っておきましょう。

問合せ 教育委員会事務局 ☎62-0823